

生化学検査実施の手引

I. 概要と試料の取り扱い

1. 試料一覧

- 1) 試料 11 : Q-112 (凍結プール血清)
- 2) 試料 12 : Q-212 (凍結プール血清)
- 3) 試料 13 : Q-312 (凍結プール血清)

2. 項目一覧

項目名	略語	項目名	略語
1. グルコース	Glu	17. 中性脂肪	TG
2. 総ビリルビン	T-BIL	18. HDL-コレステロール	HDL-C
3. 直接ビリルビン	D-BIL	19. LDL-コレステロール	LDL-C
4. ナトリウム	Na	20. C 反応性蛋白	CRP
5. カリウム	K	21. アスパラギン酸アミノ トランスフェラーゼ	AST
6. クロール	Cl	22. アラニンアミノトラン スフェラーゼ	ALT
7. カルシウム	Ca	23. アルカリホスファター ゼ	ALP
8. 無機リン	IP	24. 乳酸デヒドロゲナーゼ	LD
9. 鉄	Fe	25. アミラーゼ	AMY
10. マグネシウム	Mg	26. クレアチンキナーゼ	CK
11. 総蛋白	TP	27. γ -グルタミルトラン スフェラーゼ	GGT
12. アルブミン	Alb	28. コリンエステラーゼ	ChE
13. 尿酸	UA		
14. 尿素窒素	UN		
15. クレアチニン	Cre		
16. 総コレステロール	TC		

※ドライケミストリー法（富士、アークレイ、オーソ etc・・・）で参加される施設は、入力時の項目の選択に注意して下さい。測定原理が不明の場合はメーカーへお問い合わせください。

【試料取扱注意事項】

- 1) 試料の取り扱いは感染の危険性があるものとし、患者検体と同様に十分注意してください。
- 2) 試料を受け取りましたら速やかに外観上の確認をお願いします。もし、試料に破損、溶血等が認められ測定データの信頼性に疑義が生じる場合は、連絡してください。

3. 試料の取り扱いについて

1) 試料測定前の準備

試料を溶解してから測定するまでの時間・保存温度は測定値に影響を与えます。試薬の準備、校正の準備、自施設で使用している管理血清の測定値確認等の分析準備を整えてから手際よく測定してください。

2) 試料の溶解方法及び取り扱いについて

- ① 凍結プール血清が入っているチューブの蓋を必ず増し締めする。
- ② パラフィルム等で蓋を覆う。
- ③ 水道水の流水中に5～10分置いて完全に溶解する。
- ④ 溶解後、泡立たないように注意して10回転程度転倒混和する。
- ⑤ 内容が落ち着くまで10分間静置して直ちに測定する。
- ⑥ 測定までは、可能な限り遮光環境下で保存する。

※サンプルカップ等に分注しての放置は行わないようにしてください。

II. 項目別注意事項（特有の注意事項がない項目は記載していません）

1. Glu（単位：mg/dL）

※血糖自己測定器（SMBG）、及びPOCT機での測定はできません。

III. 問い合わせ先

臨床化学検査に関する不明な点、疑問点等についての問い合わせは、施設コード、施設名、担当者氏名を明記のうえメールにて下記担当者へお願い致します。お返事に時間がかかることがあります。時間に余裕を持ってお問い合わせください。

都城市郡医師会病院 臨床検査室

田中 康弘

Mail : meg_ryan0213@yahoo.co.jp